

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	伝統芸能	種目	歌舞伎・能楽
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	有	応募総企画数	3企画
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※	複数の企画を実施可能		

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要

ふりがな	こうえきざいだんほうじん かまくらのうぶたい		
制作団体名	公益財団法人 鎌倉能舞台		
代表者職・氏名	代表理事 石渡 徳一	団体ウェブサイトURL	
		https://www.nohbutai.com/	
制作団体所在地	〒 248-0016	最寄駅(バス停)	長谷駅
	神奈川県 鎌倉市 長谷 3丁目5番13号		
制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input checked="" type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
ふりがな			
公演団体名			
代表者職・氏名		団体ウェブサイトURL	
公演団体所在地	〒	最寄駅(バス停)	
制作団体 設立年月	1973年7月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	理事:石渡徳一、藤川譲治、中森貫太、大崎哲郎、近藤浩通、若林隆壽、井出太一、坂倉徹、浅尾慶一郎、永田まりな、監事:露木朗、矢島茂行	[団体構成員]能楽協会所属能楽師(鎌倉能舞台より出演委託した者) [鎌倉能舞台賛助会員]能楽愛好者	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	中森三佳
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	宮本 泰三(税理士)
本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
	webmaster@nohbutai.com		0467225557

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	【公益財団法人鎌倉能舞台】 ・昭和33年4月 中森晶三能楽研究会発足、同34年4月 鎌倉能の会と改称。 ・同年10月「鎌倉薪能」創立に参画。 ・同年「中高校生対象の能楽教室」開始。約300回、30万人に実演提供。 ・昭和44年7月 財団法人の認可。同45年5月 鎌倉能舞台の建築落成。 ・同年より「県民のための能を知る会」(年間22回～30回)開始。 ・昭和49年より「能を知る会東京公演」(年間4～6回)開始。 ・薪能の発展に尽力(27箇所200回以上)。 ・平成15年より日本財団事業「中高生のための能狂言教室」開始。 ・平成20年より文化庁「本物の舞台芸術体験事業」受託開始。 ・平成23年11月 公益財団法人(神奈川県)認定。 主催公演・受託公演・学生向け公演併せて年間約50公演以上、およそ16000人の観客に公演を行っております。
	学校等における公演実績	・昭和30年代より小中高校生対象の能楽教室を開始して以来、50年以上に亘って、学校体育館や公民館等での学生向け公演を実施し、平成15年度より平成25年度まで日本財団の助成を受け、「中高生のための能楽体験教室」を毎年10校～15校の学校対象に実施、平成19、20年度には文化庁「人材育成事業」を受託し、小樽、四日市、彦根、神奈川県等での子ども向けワークショップ・狂言鑑賞教室を実施しました。 ・平成21年度から文化庁「地域活性化事業」を受託し、鎌倉市内小学生への狂言教室を行い、令和元年より鎌倉市教育委員会主催で小学6年生16校の狂言教室を行っております。 ・平成19年度より、神奈川県共催の『中・高校生のための能・狂言鑑賞体験教室』を開催、神奈川県・小田原市主催の能楽ワークショップを行っています。 ・平成30年度より、鎌倉市の助成により小中学生のみで能を上演する「鎌倉子ども能」を主催しております。 ・10年以上にわたり毎年、慶應義塾湘南藤沢高等部の2年生への能楽鑑賞教室を行っております。
	特別支援学校等における公演実績	・平成21年度:横須賀ろう学校にて「本物の舞台芸術体験事業」公演を実施。ワークショップ・解説・狂言「附子」・能「羽衣」上演しました。 ・平成27年度:長崎県立ろう学校にて「文化芸術による子供の育成事業」実施。プロジェクターにより字幕をスクリーンに映し出して、字幕付きでワークショップ・解説・狂言「柿山伏」・能「安達原」を上演しました。 ・平成29年度:札幌視覚支援学校にて「文化芸術による子供の育成事業」実施。能楽鑑賞の手引き・字幕台本を事前に学校へ提供し点字変換を行い、ワークショップでは本物の能面・装束・頭を触手してもらった上で、本公演で狂言「柿山伏」・能「小鍛冶」を上演しました。 ・平成29年度:青森県八戸聾学校にて「文化芸術による子供の育成事業」実施。プロジェクターにより字幕をスクリーンに映し出して、字幕付きでワークショップ・解説・狂言「柿山伏」・能「小鍛冶」を上演しました。

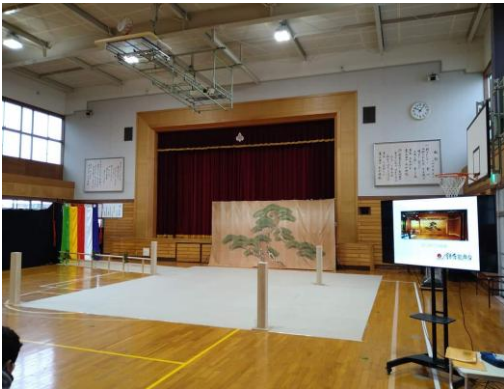





参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	https://youtu.be/OkTvp-LrvqA	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	
		PW:	

別添	あり
----	----

【公演団体名 公益財団法人 鎌倉能舞台 】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	能楽「小鍛冶」「柿山伏」 ー【字幕解説付き】わかりやすい能・狂言鑑賞体験教室ー日本の伝統文化を知ろう			
企画のねらい	①想像力の涵養:今の小中学生が生まれた頃には、インターネットを通じて多彩な映像や音声があふれており、その中で成長しています。これは非常に便利である反面、与えられたものをそのまま受け止めてしまうため、目の前にないもの、形のないものを想像する機会に乏しいともされています。能楽は台本、劇場、衣装、楽器等道具類が誕生当時からほぼ変わらない世界的にも珍しい芸能です。そのため鑑賞者は、演者の装束や持ち物、地謡の詞章、舞台上に置いてある作物をヒントにして、自分の中で場面を想像して楽しむ演劇です。能楽をととして、想像することの楽しさの一端にふれてもらいたいと考えています。 ②能楽の普及:伝統芸能を次代に引き継ぐためには芸の継承者は必要ですが、芸能の存在を知り、ファンとなり、新たな担い手と生み出すための「芸能を支えていただく層」の存在が必要です。小学生・中学生が公演を通じて能楽に親しみを持ちやすい演目を選定し、数十年先に伝統芸能を支援する層となってくれることを期待します。			
演目概要・演目選択理由	能「小鍛冶(こかじ)」:前半は日本武尊が草薙剣で東国の夷を滅ぼした場面、後半は軽快な囃子の演奏と宗近と狐が剣を打ち上げるところが見せ場。もともと全体にストーリー性に富み動きも多く小学生でも理解しやすい曲ですが、巡回公演では筋書きを壊さない範囲で詞章の省略をすることで、一層分かりやすい筋立てとなるよう工夫をしています。 狂言「柿山伏(かきやまぶし)」:物語が簡潔で分かりやすく、台詞よりも動物の動きや声の物まねなど子供の興味をひく型が多い狂言です。小学校の教科書に採択されており、授業の理解度向上の効果も期待できます。			
児童・生徒の参加または体験の形態	【能公演での児童・生徒の共演】 ・ワキの待語を事前ワークショップで練習、本番の公演中に、練習した語の一節を舞台の能楽師と一緒に全員で謡います。 ・事前ワークショップで刀と槌を工作で作り、本番の公演中に子供たちが振って参加し、舞台との一体感を感じてもらいます。 【狂言体験での児童・生徒の参加】 ・狂言と能を鑑賞した後の「狂言体験」のコーナーで、狂言の先生から狂言の基本的な「構え」や「運び(歩き方)」を教えてもらった後、「柿山伏」で見た柿を食べる演技や、笑い方などを、舞台上上がった生徒と客席の全員で体験してもらいます。			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	10人ー2000人	
		鑑賞人数目安	10人ー2000人	
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	狂言「柿山伏」 能「小鍛冶」 〈第一部〉 1: 始まりの挨拶と解説 「能舞台について」「本日の演目について」(5分) 2: 狂言鑑賞 「柿山伏(かきやまぶし)」 鑑賞(15分) ー休憩ー (10分) 〈第二部〉 3: 能鑑賞 「小鍛冶(こかじ)」鑑賞 (40分) プロジェクターに字幕投影(※) 4: 狂言体験(20分) 5: 質問コーナー (10分) (※)弊財団が創始した「字幕e能®」により、場面やセリフの内容を画面になして観客の理解の一助とします 【別添1、別添2参照】			
	公演時間	100	分	
出演者	シテ方: 中森貫太、観世喜正、駒瀬直也、弘田裕一、奥川恒治、佐久間二郎、中所宜夫、遠藤喜久、遠藤和久、坂真太郎、鈴木啓吾、中森健之介、桑田貴志、八田達也、寺澤幸祐 等 (シテ1名、地謡6名、後見2名 働き2名 計11名) ワキ方: 宝生常三、大日方寛、則久英志、御厨誠吾、館田善博、野口琢弘 等 (計3名) 狂言方: 大蔵教義、大蔵基誠、善竹大二郎、高野和憲、深田博治、中村修一、野口隆行、奥津健太郎 等 (計3名) 笛方: 寺井宏明、一噌隆之、藤田貴寛、栗林祐輔、竹市学、平野史夏 等 小鼓方: 幸正昭、鶴澤洋太郎、飯田清一、久田陽春子、田邊恭資 等 大鼓方: 安福光雄、柿原弘和、亀井広忠、上野義雄、柿原光博 等 太鼓方: 小寺真佐人、梶谷英樹、中田弘美、姥浦理紗 等 (囃子方 計4名) ※太字は重要無形文化財保持者。 能楽界第一線で活躍する経験豊かな「能楽協会所属能楽師」(＝玄人)が上演。			
演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	・主宰 中森貫太: 観世流シテ方。重要無形文化財・日本能楽会会員・能楽協会会員、東京藝術大学音楽学部邦楽科別科修了。3才頃から故・父中森晶三に師事し舞台に立つ。藝大卒業後観世喜之家に入門。1985年に独立してプロの能楽師に。(公財)鎌倉能舞台を主宰して定期公演を行うだけでなく、自らも道成寺、安宅、望月等大曲や、九世戸、大社といった滅多に上演されることのない演目のシテも勤め、能楽の普及と共に、技術の継承も行っている。 ・メインキャスト 中森健之介: 観世流シテ方。能楽協会会員。2才頃から父中森貫太、故・祖父中森晶三に師事、数々の子方を演じる。慶應義塾大学卒業後、観世喜之家に入門。2016年独立。今までに乱、石橋、道成寺を抜く。 ・キャスト 宝生常三: 下掛宝生流ワキ方。重要無形文化財、日本能楽会会員、能楽協会会員。故・父森茂好、故・宝生弥一に師事。娘捨、関寺小町等、数々の大曲のワキも任される。1998年芸術選奨文部大臣新人賞受賞。			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	出演者:	21	名	運搬
	スタッフ:	2	名	
	合 計:	23	名	
	積載量:	2	t	運搬
	車 長:	5	m	
	台 数:	1	台	

本公演・ワークショップの内容

<p>本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュール) の目安</p>	前日仕込		無		前日仕込所要時間		時間程度
	到着	仕込		上演	内休憩	撤去	
	9時	9:00-10:00		10:00-11:40	10分	11:40-12:10	12時10分
	※本公演時間の目安は、概ね2時間分程度です。						
<p>本公演 実施可能日数 目安</p> <p>※実施可能時期については、採択決定後に再度確認します(大幅な変更は認められません)。</p>	6月		7月		8月		9月
	17日		17日		10日		17日
	10月		11月		12月		1月
	17日		17日		17日		15日
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計		127日
<p>公演に係るビジュアルイメージ (舞台の規模や演出がわかる写真)</p> <p>※会場条件について最低限必要な条件がある場合には、様式No.4内「会場簡易図面」を記載し</p>							
	本公演舞台：フロアに設営の様子		本公演舞台：ステージに設営の様子				
							
	狂言「柿山伏」		能「小鍛冶」				
<p>狂言ワークショップ</p>							
	狂言ワークショップ		能上演時字幕見本				
<p>著作権、上演権等の許諾状況</p>	各種上演権、使用権等の許諾手続の要否		該当なし		該当コンテンツ名		
	該当事項がある場合	権利者名			許諾確認状況		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

あり

【公演団体名 公益財団法人 鎌倉能舞台 】

ワークショップのねらい

・映像や動画を利用して、それに能楽師が解説を加えることで、能楽に初めて触れるであろう子どもたちの期待を促します。

・謡曲の体験で、日本語の正しい発音(鼻濁音など)の説明、囃子に合わせて謡う稽古をすることで、ふだんとは異なる能のリズム感を感じさせます。また、能の楽器を実際にさることで、西洋音楽とは違う日本の音楽への関心を深めて頂きます。

・能面をかけてみてもらい、能面の視界(の狭さ)を体験することにより、能舞台の四隅に柱がある意味や、見えない上に重い衣裳を着た役者の動きに興味を持ってもらいます。

児童・生徒の参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

1～100人以上(全校生徒対象でも実施可能)

ワークショップの内容

ワークショップ実施形態及び内容

標準:90分
○事前ワークショップ「能について知ってみよう!」(能楽師3名で行います)

(1) 挨拶 日本の文化を学ぶ姿勢を身につけましょう。

(2) 謡ってみよう!

児童・生徒全員に「小鍛冶」の謡の一節を謡ってみます。
本公演でも、この一節を能楽師とともに全員で謡って公演に参加します。

(3) 能面をかけてみよう!

児童・生徒に能面を実際に つけて歩いてもらい、能面をかけた時の見えにくさを体験してもらいます。

(4) 能の楽器や装束をさわってみよう!

公演で利用する楽器や装束の説明をし、実際に手で触ってもらいます

(5) 能の小道具をつくってみよう!

能の小道具の説明をし、その後、
皆さんに簡易な「鎚(つち)と刀身(とうしん)」を作ってもらい、刀を振る型をやってみます。

【別添3参照】



その他ワークショップに関する特記事項等

特別支援学校での実施における工夫点

・事前に学校側と綿密な打合せを行い、子ども達が一番ストレスを感じない公演スタイルを構築。

・視覚支援学校の場合は、学校の協力を頂きながら字幕も含め資料の点字化を行うと共に、本物の能面・装束などを触手してもらい、子ども達にイメージを膨らませて貰います。

・聾学校の場合は解説・狂言・能と全て字幕を出しながら上演。見て楽しんでもらえるようにします。

一般区分・特別エリア区分共通
No.4(共通)

別添	なし
----	----

【公演団体名 公益財団法人 鎌倉能舞台 】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。

- ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
- ・搬入車両が構内に入れず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
- ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。

上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。

任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。

詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。

なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。						
会場の設置階の制限		2F以上応相談		主幹引き込み電源容量			A以上
舞台設置面積	間口	15 m		奥行	7 m		
	高さ	指定無し	m				
舞台設置場所	フロア対応	可		学校のステージでの対応		可	
搬入間口の広さ	幅	2 m		高さ	2 m		
遮光の要否	7割程度必要		緞帳の要否			不要	
ピアノの使用について	使用しない		ピアノを使用する場合の設置位置の指定			条件なし	
			ピアノを使用しない場合の移動の要否			要	
搬入車両(トラック等)の横づけ	応相談		トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離			10 m以内	
搬入車両の種類	ハイエース		台数	1 台			
搬入車両の大きさ	車幅	2 m		車長	5 m		
備考	①には基本的な必要条件を記載していますが、実施校の状況に応じて柔軟に対応いたします。						

※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報

(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。	
会場図面の提出要否	要	
その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)		

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合には、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ					
	ワークショップ					
	本公演					
	本公演					

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1	【控え室 1部屋】囃子方(楽器)の調律のため、体育館外で可能な限り体育館近くに、成人男性4人が着替えられる程度の部屋を使用させていただきますと幸いです。(和室である必要はございません。)	
	2	【大型バス乗り入れの可否】出演者は大型バス1台で来校予定です。大型バスの乗り入れは可能でしょうか？ 入れない場合は、中型もしくはマイクロバス2～3台、それも無理ならタクシー分乗など柔軟に対応可能です。	
	3	【搬入について】可能な限り体育館近くの位置に車(ハイエース1台)を寄せて簡易能舞台セットや装束等を搬入します。 【搬入口のサイズ】通常の体育館の両開きの扉なら特に問題ありません。	
	4	【ステージ利用の場合、舞台袖スペースについて】下手側を楽屋として使用するため、下手側には荷物が無い状態にさせていただきますと助かります。上手側舞台袖は使用しないので、そちらへの移動していただけると幸いです。	
5	【ピアノ】ピアノはがステージ上にあり公演時にステージを使用する場合は、ピアノをフロアに下ろすか上手側に移動して頂けますと助かります。ピアノがフロアにある場合は、フロアの上手サイドか後方に移動して頂ければ幸いです。		

別添

なし

【公演団体名 公益財団法人 鎌倉能舞台 】

【本事業を通じて実現したいこと】

①本事業に対する取り組み姿勢

弊財団は、日本の子どもたちに伝統芸能を鑑賞できる機会を提供する「文化芸術による子供の育成事業」に大きな期待を寄せています。

「能楽」は、「人類の口承及び無形遺産の傑作」として2001年に宣言され初指定された、ユネスコの世界無形文化遺産です。来日する外国人観光客にも日本文化を感じるものとして認知されているのか、弊財団の定期公演にも外国人のご来場が増えてきました。

一方、日本人には「能楽」が縁遠い存在であることは否めません。

原因は一つに求められるものではありませんが、能楽界自身が長い間、能楽の愛好者以外に普及することをしなかったことの影響は少なからずあると考えています。弊財団の創設者である中森晶三が危惧したのもその点であり、昭和40年代から普及を第一にした「能を知る会」を開始しました。普及目的であるからこそ、「本物」を準備しなくてはなりません。弊法人が考える本物とは、現代まで受け継がれてきた形をそのままに伝えることであり、まずは能と狂言を組み合わせた「番組」の形で能楽を提供することだと考えています。能だけ、狂言だけでは「能楽」にはなりません。同じ猿楽を源流としていても、歌舞劇である能とセリフを中心とした劇である狂言を一連のものとしてみることで、両者の似ている部分、異なる部分を比較することができますし、どうして両者を組み合わせて「能楽」と称されているかについて、納得をしていただけるものと考えます。

能楽に対していい評価も悪い評価も持っていない子供のうちに、本物の演者が本物の番組で正しい能楽を体験・鑑賞してもらい、伝統芸能に対する肯定的な評価を持ってもらいたいと思い一生懸命企画、準備、本番と実施しています。子供に対して真摯に向き合うことが、演者が芸をつなぐだけでなく、次世代で能楽を支える観客となってもらうために重要だと考えています。

「番組」にするためには、一座の規模が大きくなり、事業にかかる費用が大きくなりがちなのは承知しておりますが、弊財団はこれまで文化庁、芸術文化振興基金のご理解と助成をいただきながら、正しい「能楽」をたくさんの人に伝えてきました。今後も引き続きその任にあたりたく、ご支援賜りますようお願い申し上げます。

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫

【上記の実現に向けて、実施の工夫】

②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫

能と狂言を楽しく鑑賞してもらうために、出演者も能楽界第一線で活躍中の経験豊かな能楽師を無形文化財保持者を中心に選び、「選び、「感動できる良い舞台」を目指します。学校では子ども達と積極的に挨拶を交わし、開演前や終演後も質問に答えるなど、コミュニケーションを大切にします。

実施校が決まれば、体育館の規模に余裕があれば、近隣の学校にも声を掛けていただくなど、対費用効果の点からも積極的に働きかけをします。また、準備時間や退出時間も極力短くして、午前中の授業での体育館の使用等に支障が出ないように配慮します。客席のレイアウトも、体育館の形状に合わせて、学校側と協議しながら柔軟に対応いたします。

子供達は何がわかっていないか、何を知りたいかを考え、現場の先生方からお話を伺いながらワークショップの解説の内容も微調整し、パワーポイントで作った資料を持参し、プロジェクターで映像や動画を映し出ししながら、能楽について少しでも理解して貰えるよう努力してまいります。

事前ワークショップ、本公演とも、生徒が楽しかったと思って貰えるよう、生徒参加型の公演に徹底します。

ワークショップ・本公演とも、公演に関しての学校での事前・事後ご準備は特に必要なく、プログラムの運営、舞台準備等、全て弊財団が責任をもって行います。

本事業への応募理由

事業を適切かつ
円滑に実施するための
工夫

【学校との連絡調整について】

- ① 実施校が決まり、日程調整をする際には希望調書にある日で候補日を上げ、学校に電話でワークショップの実施や他校との連続公演をお願いしたい由を説明の上で日程調整をする。
- ② 日程決定後にワークショップの候補日を一週間の中で希望日を出せるだけ出して頂き、同一週に開催する学校の調整を取る。その際には問い合わせ表をFAXにて送信し、やりとりの記録を必ず残すようにしている。
- ③ 日程決定後にワークショップ、本公演の日程を書いた文章をFAXで送信し、参加人数や学校側からの希望を回答して頂く(FAXにて)。その際にワークショップの際に拝借したい備品(プロジェクター、スクリーン、長机など)も記載する。
- ④ ワークショップの実施日一カ月前位に配付資料を学校に送付。その際に著作権保護の書類やワークショップで拝借する備品などの確認も行う。当日は3名で何うこと、レンタカー1台で開始1時間前に訪問することもお伝えする。
- ⑤ ワークショップ数日前にもう一度電話で開催日、開催時間の確認を行い、ワークショップ当日に本公演の会場確認と当日の打合せを行う。
- ⑥ 本公演前日に電話で日時の確認を行い、当日はバス到着10分前位にも電話で連絡を行いバス進入路や体育館への動線などの確認を行う。

【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】

ワークショップでは児童・生徒の反応を見ながら、プログラムに囚われず興味を引かせるように、体験や演奏の順番を入れ替え、退屈しないように気をつけています。

工作のある曲目では生徒の並びを高学年と低学年を交互に並んでもらい、上級生が下級生の補助を出来るようにして、講師がその手助けをしています。

事前に注意点を担当者に質問し、希望があればそれに沿って実施している。

【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】

終演後の質問コーナーの際に回答しきれなかった質問については、後日学校から取りまとめた質問を送って頂き、それに回答している。

また当財団のホームページやSNSを紹介し、質問があれば後日でも対応している。

当日収録した動画は教材として授業で使う事を許可し、希望があれば別枠のワークショップを受けられることもお伝えする。(実施例有り)

毎年作っている能の写真入りのカレンダーを差し上げて生徒の目に触れるところに使って頂き時々思い出して頂きたいとお伝えしている。

○舞台について:【体育館が能舞台に！ どこでも能舞台】

- ・簡易舞台セットで体育館に「能舞台」を作ります。(簡易柱・欄干、揚げ幕、鏡板)
 - ・舞台は体育館の形状・生徒数によってステージの上でも体育館の床でも、ステージの上でも設置可能です。設営・撤収とも30分程、能楽出演者で設置・撤収します。
 - ・舞台横にスクリーンで字幕を表示し、わかりやすい現代語訳の解説を写し出します。
- ※平成10年より鎌倉能舞台が”簡易舞台セット”=「どこでも能舞台®」を考案し、学生向け公演に導入始めました。



○本公演プログラム

1. 解説「狂言と能をいよいよ見るぞ！」

解説では、これから公演を行う能舞台を実際に見ながら、舞台形状の意味や柱の存在理由、拍手のタイミングなどをお話します。これから上演する狂言と能のあらすじを、詞章や型の説明を加えながら、わかりやすい言葉で行います。能と狂言がセットになった本来の形で見ることにより、ユネスコの世界文化遺産になった日本の伝統芸能「能楽」を的確に理解を深めることができます。



2. 狂言「柿山伏(かきやまぶし)」

小学6年生国語の教科書に載っている演目を鑑賞して頂きます。



項目内容

本公演
内容補足①

別添 ※別添は1企画当たり3枚までとします。※文字のポイントの変更は認めません。

リンク先

No.2

【公演団体名 公益財団法人 鎌倉能舞台 】

○本公演プログラム（続き）

3. 能「小鍛冶（こかじ）」

最初が少年、後半が狐に変わり、「剣を打つ」所作のある、子どもにも理解しやすい演目です。後シテが鎧を使って相鎧を打つ場面をワークショップで体験して貰います。また、曲の詞章の一部を練習し本番中に一緒に声を出して謡って貰います。

囃子としては技巧的な曲でもあるので、能の音楽性や掛け声の意味なども理解しやすいことから選曲いたしました。テンポも早い曲なので小学生低学年でも飽きること無く鑑賞できます。

生徒が飽きないよう、40分程度に詰めて上演します。また、スクリーンに字幕を出して、現代語で、場面ごとの説明をお見せしながら見て貰います。



項目内容

本公演
内容補足②

4. 体験ワークショップ

鑑賞した「柿山伏」に出演した狂言方が、曲中の台詞や所作を、代表して舞台上上がった生徒と客席の全員に体験してもらいます。



5. 質問コーナー :

能楽全般の質問に誠意を持ってお答えします。質問が多すぎて時間が足りない場合は、学校で取りまとめて頂ければ責任を持って後日回答をいたします。

リンク先	No.3-①	【公演団体名 公益財団法人 鎌倉能舞台 】
<p>項目内容</p> <p>ワークショップ 内容補足</p>	<p>○事前ワークショップ「能について知ってみよう！」（能楽師3名で行います）</p> <p>・まず、ご挨拶からはじめます。 : 始まる前に「お願いします」、 終わりに「ありがとうございました」と、 ご挨拶をかわしましょう。 : 実際に公演に使う能面や鬘、装束 を見て貰います。</p>  <p>・謡ってみよう！ : 生徒全員に「小鍛冶」 の謡の一節を謡って もらいます。</p>  <p>◎さあワークショップの成果 を見せよう！</p> <p>前にいるお能の先生と一緒に 声を出してみましょう！</p>  <p>・能面をかけてみよう！ : 生徒に能面を実際 につけて歩いてもらい、 能面をかけた時の 見えにくさを体験し てもらいます。</p>   <p>・能の楽器をさわってみよう！ : 能の楽器の説明と、実際に さわってもらいます。</p>   <p>・能の小道具をつくってみよう！ : 能の小道具の説明をし、 その後、皆さんに簡易な 「鎚(つち)と刀身(とうしん)」 を作って、刀を打つ型をやっ てもらいます。</p>  	